

V-002 術前化学放射線療法後完全切除できた右 Pancoast肺癌の1例

自治医科大学外科学講座 呼吸器外科部門

手塚 憲志, 遠藤 俊輔, 齊藤 紀子, 遠藤 哲哉, 手塚 康裕,
金井 義彦, 大谷 真一, 長谷川 剛, 佐藤 幸夫, 塚田 博,
蘇原 泰則

【はじめに】右 Pancoast 肺癌で術前化学放射線療法後、完全切除施行し得た1例を経験した。【症例】57歳, 男性【現病歴】右上肢挙上時右胸痛および発熱認め, 近医受診。抗生剤治療にて改善を認めず, 肺癌疑いにて当院内科紹介。TBLB 施行, 扁平上皮癌の診断を得た。胸部 CTにて右肺尖に広範な胸壁浸潤が疑われ, また縦隔リンパ節腫脹もあり, 術前化学放射線療法施行した(31%の縮小率, PR)。c-T3N2M0 stageIIIA の診断にて手術を施行した。【手術】左側臥位, 右第5肋間高位後側方開胸。右上葉は萎縮し, 肺尖から第4肋間背側壁まで癒着していた。腫瘍の浸潤があったと考え, 癒着は剥がさずに第5肋骨から第1肋骨まで後側方を順次切離。後方は椎体の関節面ではずした。鎖骨下動静脈部では瘢痕様組織を認めしたが, 迅速組織診にて陰性であった。右上葉切除, 中葉部分切除, 胸壁合併切除, 縦隔リンパ節, 鎖骨上リンパ節廓清術施行した。手術時間 360分, 出血量 1300mlであった。【術後経過】術後経過順調で 24 病日に退院し, 現在も再発徴候は認めていない。